

経営比較分析表（令和元年度決算）

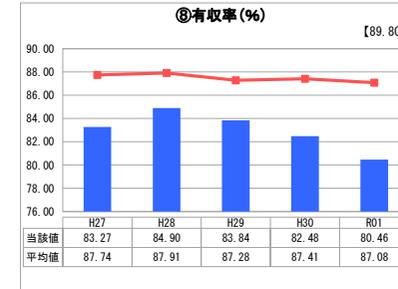
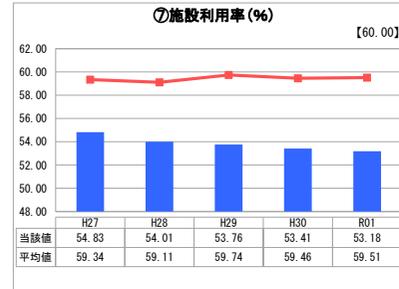
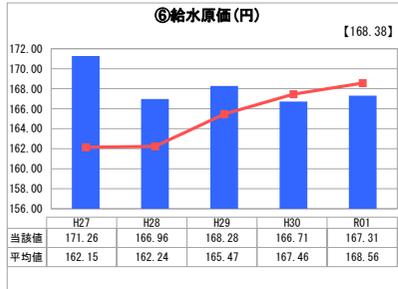
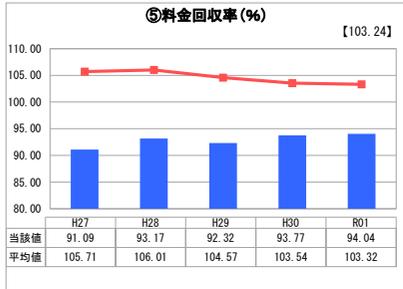
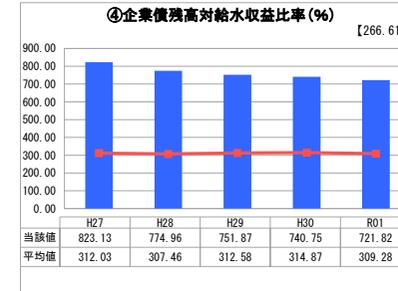
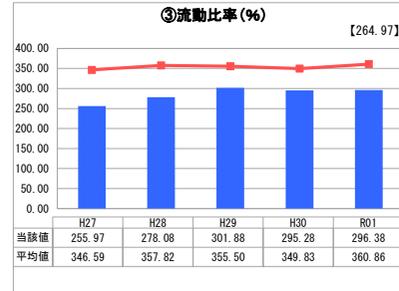
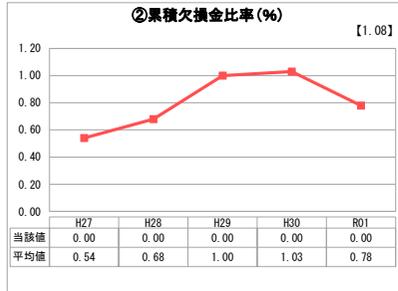
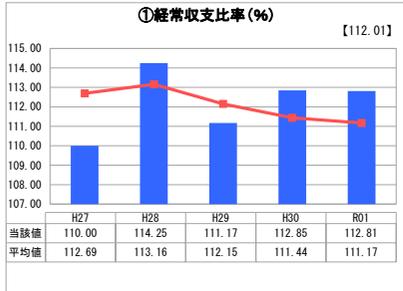
兵庫県 豊岡市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	56.78	99.97	2,684	

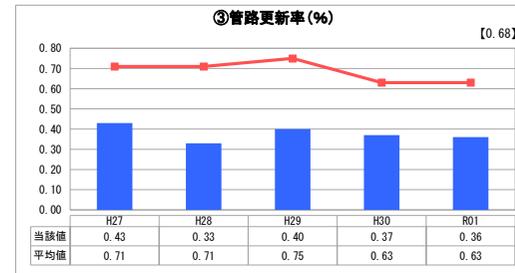
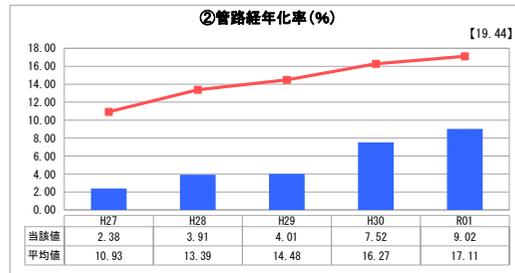
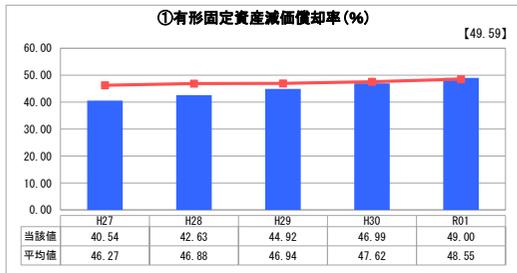
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
80,942	697.55	116.04
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
80,392	171.75	468.08

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率は類似団体平均をやや上回っている。100%も超えており、良好な状況である。
 ②累積欠損比率は、累積欠損はなく、問題ない。
 ③流動比率は類似団体平均を下回っているが、300%近くあり、問題ない。
 ④企業債残高対給水収益比率は、これまでの施設整備のために多額の企業債を発行してきたため、類似団体平均の約2.3倍と高い水準にある。本市はこの比率を減少させていくことを中長期的な課題としており、少しずつはあるが減少させている。
 ⑤料金回収率は類似団体平均を下回っている。総務省の繰出基準の考え方をベースにした繰入金が類似団体よりも多いことが原因であると考えている。
 ⑥給水原価は類似団体平均をやや下回っている。引き続き経営の効率化により改善を図ってきたい。
 ⑦施設利用率は水需要の減少から低下傾向にある。施設の統廃合や適切な規模への更新を計画的に進め、利用率を改善させていく必要がある。
 ⑧有収率は類似団体平均を下回っている。近年は悪化傾向にあり、漏水箇所が増加が原因と考えられる。漏水調査を進め、改善させる必要がある。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は年々上昇傾向にあり、保有資産の老朽化が進んでいることを示している。将来多額の更新費用が必要になると見込まれるため、適切な整備計画に基づく更新が必要である。
 ②管路経年率は類似団体平均を大きく下回っているが上昇傾向にある。一方、③管路更新率は類似団体平均を下回っている。本市は面積が広く、管路延長も長いうえ、近年は経過年数よりも漏水事故頻発箇所を重点的に更新していることも要因だが、状況を把握して計画的に老朽管を更新していく必要がある。

全体総括

本市水道事業の経営は、現在は概ね良好だが、給水人口の減少に伴う水需要の減少、老朽化に伴う大規模な施設更新の必要、多額の企業債の返済等、将来に多くの課題を抱えており、今後の収支状況は悪化するものと考えられる。
 今後は、水道の安全性、信頼性は確保しつつ、将来を見据えた適切な規模の施設や管路の更新を進めること、漏水事故を減少させること等により、施設維持管理費用の削減、施設利用率の向上、有収率の向上を図り、さらなる経営の健全化に努めていきたい。